

# 佐渡 金の島

## SADO

# 渡

二十一世紀の地球上で消滅しつつある遺跡と人類の遺産は数多くある。世界の、日本の、新潟の、佐渡の、金鉱山の歴史と文化遺産を、残そう。

Sado Gold and Silver Mine

### 道遊の割戸(国指定史跡)

慶長6(1601)年、相川金銀山発見の端緒となった大鉱脈「道遊脈」の採掘跡、江戸時代には主に地表部の採掘が行われたが、明治以降も下部で大規模な開発が行われた。



大立野坑(国指定史跡・国重要文化財)

明治10(1877)年にドイツ技師の指導により完成した日本初の西洋式堅坑。この鉄製のやぐらは、昭和13(1938)年頃からの金の増産体制時に建設された。



佐渡奉行所跡(国指定史跡)

慶長9(1604)年、奉行の久保長安によって相川の町が整備され、奉行所は佐渡の鉱山経営と行政の中心的役割を担った。18世紀半ばからは、鉱石を選別、製錬する選鉱施設(寄勝場よせせりば)も増設した。



鉱山町の町並み

奉行所と金山を結ぶ江戸時代の繁華街跡。往時には京都や大坂の呉服商たちの店が軒を連ね、3階建ての家もあったという。



北沢火力発電所

(佐渡金山近代写真展示館)(国指定史跡) 明治41(1908)年に完成した石炭火力発電所。500kwの蒸気タービン1基が設置され製鉱場が蒸気機関から電動機に代わった。昭和初期の大増産期には1800kwに増強された。



大間港

鉱石や石炭などを搬出するために築港され、明治25(1892)年に完成した。石灰を用いた、たたき工法護岸と1.2tクレーンの台座やレンガ倉庫が現存する。



鉱山白(うす)

相川の鉱石はとても硬いため、鉱石を粉砕するための鉱山白が必要不可欠でした。鉱山白は鉱石を効率的に磨りつぶすために適した上、下異なる石を使っています。今は、石垣などに再利用されて往時の鉱山開発の痕跡を留めています。



北沢浮遊選鉱場(国指定史跡)

シツクナーと同時期に、隣接して建設された。最大で月間7万トンの鉱石を処理し、当時「東洋一」と言われた。



50メートルシツクナー(国指定史跡)

直径50mの鉄筋コンクリート製で昭和13(1938)年頃からの金の増産体制時に建設された。泥状の鉱物を鉱物と水に分離する施設。



石切場(国指定史跡)

上白の石材を切り出した石切場の吹上海岸。石切場と下白の石材供給の片辺・鹿野浦海岸。石切場が海岸の岩場に遺跡として残っている。



やわらぎ(鉱山に関わる伝統芸能)

金銀山の鉱山開発により島内の生活は豊かになり、各地で能や人形芝居などが行われた。鉱山従事者から生まれた「やわらぎ」は、鉱山の繁栄と境内労働の無事を祈り、鉱石を砕く様子を表した奇祭として、当時の鉱夫の姿を今に伝えています。



鐘楼(国指定史跡)

時報を鐘でついで知らせた木造の鐘楼が、代官所と海を背景に佇んでいる。通り沿いには、レンガ作りの塀が往時の繁栄を物語る。



道遊坑(国指定史跡・国重要文化財)

明治32(1899)年、「道遊脈」の開発を目的に開削された主要運搬坑道。今でもトロッコのレールが残っている。

【金を中心とする佐渡鉱山の遺産群】

佐渡を世界文化遺産に

金を中心とする佐渡鉱山の遺産群は2010年11月22日、世界文化遺産候補として世界暫定一覧表に掲載されました。

「佐渡市世界遺産推進基金」の寄付金を募集しています。

お問い合わせ、お申込み 佐渡市世界遺産推進課 TEL:0259-63-5136  
新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室 TEL:025-280-5726